

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：2020年2月11日 報告者：森下 拓磨、神谷 美聡

行事種別	研究会	行事番号	190030553	
開催日	2020年2月1日(土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	株式会社スズケン名古屋支店 2F 会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	令和元年度愛臨技精度管理報告			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	豊橋市民病院	森下 拓磨		
	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院	神谷 美聡		
講師	講演 1 臨床化学部門 精度管理報告 愛知医科大学病院	森部 龍一		
	講演 2 免疫血清部門 精度管理報告 名古屋掖済会病院	岡本 明紘		
	講演 3 がんと腫瘍マーカー アボットジャパン合同会社 中日本営業部 テクニカルスペシャリスト	櫻井 崇		
内容	講演 1 では臨床化学部門の精度管理調査報告がなされた。全項目について例年と同水準でよく収束していたこと、JCCLS 共用基準範囲の採用施設が増加していることが報告された。今年度より評価幅を変更したドライケミストリー法について、原理やウェット法との違いも解説された。講演 2 は免疫血清部門の精度管理調査報告がなされた。法改正の影響から参加施設が漸増しているが、例年と同水準であったことが報告された。ただし、C,D 評価の原因として人為的なエラーが散見されたため注意喚起がなされた。講演 3 ではがんの基礎的なことから死因別死亡率や5年相対生存率などの疫学や検査法について解説した。続いて腫瘍マーカーの種類や特徴、症例に応じた継時的変化など幅広く解説がなされ、また新規の腫瘍マーカーである HE4 についての情報提供も行われた。HE4 は卵巣癌に特異性が高く、CA125 とは相関しないため組合せることで感度も特異度も高まること、さらに閉経情報も合わせた ROMA 値からは上皮性卵巣悪腫瘍の推定に使用されることが分かった。今後の新たな腫瘍マーカーの動向にも注目していきたい。			
参加者	総数：65名(会員59名、非会員0名、賛助会員6名、学生0名、その他0名)			
共催、後援など	なし			